

## 第 1 回東浦町景観計画策定のワークショップレポート

### 「みんなで未来の東浦絵図を語り合おう」

とき：平成 25 年 8 月 23 日(金)午後 1 時から

ところ：東浦町役場→半田市景観形成重点地区（半田運河周辺・岩滑）



東浦町緒川区下切の景観。

### ■東浦町景観計画策定ワークショップがスタートしました！

〇8月23日東浦町景観計画策定ワークショップに参加しました。

誇りの持てる美しい東浦の景観づくりを目指して、町民と事業者・行政が三位一体となって「こんな町に住んでみたい」というみんなの思いを語り合い、「夢の絵図」を描いて、未来の東浦の風景の方向性を創ろうとする試みです。これを受けて次年度景観計画や夢を実現するための手法、基準づくりを行い、景観条例の制定・施行につなげていくわけです。

### 〇ちょっと少ないけど多様な参加者の顔ぶれ

公募で選出された方(ふるさとガイド・地域の情報を発信するブロガー・町を愛する主婦・地域の不動産屋さんや建築家など)6人、日常人と人をつなげるコミュニティーに奔走する各区长さん6人、街づくりの経験豊かなコンサルタント、そして東浦町都市計画課さんというメンバーで構成されています。ちょっと少ないことは気になりますが、それに負けないぐらいのそれぞれの思いはたくさんありそうです。

## 〇なにげない風景だからこそ大切に残したい

会の冒頭で「今、なにげない風景がどんどん失われていて寂しい」とおっしゃられた方がみえました。その言葉がずっしりと胸に残ります。

みんなの日常に寄り添ってきたささやかな景観が、私たちの心にゆとりと潤いを与え、やすらぎをもたらしてくれていることに気づかされることがあります。

みんな、好奇心をもって街を散歩し、ふつうのかわいくて素敵な風景を集めて、新しい町や景観をつくる材料にしていく必要があるのではないのでしょうか。



寺院の門と石段は子供たちの遊び場



空地の小さな森？

## ■先進事例の視察を通して見えてきたもの（半田市半田運河地区・岩滑地区）



半田運河地区の景観。軒の高さのリズム、黒板の外壁、端正な切妻屋根。

## 〇半田市景観計画の現状

半田市の現状の規定は、色の彩度について指定された範囲におさめることが義務(色相は自由)となっていますが、それ以外の屋根や建物の形・使用する材料・外構(お庭・門・柵など)・緑化に関することはほとんど努力義務です。

以下の写真はすべて半田市ふるさと景観計画に基づく景観形成重点地区の現況写真です。



半田運河周辺地区



岩滑地区



里山風景地域

- 左上の写真：半田運河周辺地区  
地区内に残る醸造蔵などの歴史的建造物を活かした景観をつくることを目指した地域
- 右上の写真：岩滑地区  
新美南吉にまつわるもの、社寺・矢勝川や田園風景、祭りや伝統行事に配慮した景観を目指す地域
- 下の写真：里山風景地域  
美しい水辺と豊かな緑を活かし、河川やため池、里山や農地などの自然風景を保全し、半田の歴史・文化・伝統を理解尊重した景観形成を目指す地域

### ○景観計画のむずかしさ

色の彩度による規定の限界と努力義務のレベルではなかなか描いた夢の絵図を実現できない現状が見え隠れします。

個人の自由と、景観を保護するための規制との葛藤がつきまといます。

みんなが東浦に愛着と誇りをもって豊かに住もうためにどうしたらよいのか。

ひとりでは実現できない、集まってやることの意味とその楽しさを考えたい。

みなさんはどう思われますか？

### ○残るものと消えゆくもの

この写真はきっと皆様をご存知の半田の風景ではないでしょうか。



中笠酢店 酢の里



半田市役所



某お屋敷の蔵

- 左の写真：中笠酢店 酢の里→解体され別の場所で新築
- 中の写真：半田市役所→新庁舎竣工後解体
- 右の写真：某お屋敷と蔵→お屋敷を半田市が買い取り、使いみちを検討中

景観とは歴史や人々の記憶の堆積の上に成り立つものです。残していくことでしか得られない価値がある。建築学や歴史的にとか学問的価値ではなく、人々の日常にいつも寄り添ってくれていた建物や街並み、自然景観がある。そんなささやかな記憶を頼りに人間は生きている。

そんな景観を保存しながら、新しいものも付加していき、未来へつなげていくことを考えてみませんか。